

No.

2023 年度 理 科 年間学習計画表

山形県立長井高等学校

科目	教養化学	単位数	2	週時間数	4	年次・コース・組	3年一般コース理系
使用教科書 副教材等	自主教材,リードα化学基礎＋化学(数研出版),スクエア最新図説化学(第一学習社),						

① 学習の到達目標

『化学基礎』ならびに『化学』を履修した上で、それらの科目で学習した内容を踏まえ、以下の内容を学習する。(1)高校化学の基礎知識・基本技能の習熟を図る。(2)現象と理論の結びつきや各分野の関連性を考えながら取り組み、応用的・発展的な課題にも挑戦する。(3)特に、以下の内容の深化を図る。①物質の状態 ②化学反応 ③様々な物質

② 評価の観点、方法

(1)100点法で評価するが、その内訳は原則として定期テスト8割、平常点2割とする。(2)定期テストにおいては、知識、理解、思考力、表現力を評価する。(3)平常点の内容は、出席状況と授業への取り組み(関心、態度)、小テスト(意欲、知識)、課題の提出(意欲、思考力、表現力)などとする。

③ 担当者から

(1)「化学」の履修を前提として学習する。(2)探究化学よりもやや基礎的な内容に重点を置いて学習するので、理系の大学進学のためには不十分な内容である。

※ 前期反省

--

※ 年間反省

--

※ 次年度に向けて

--

④ 学習計画（どのような内容を、どの時期に学ぶのかを含む）

月	単元名	教科書項目等	・主な学習活動(指導内容) ◎評価のポイント ○留意点	授業予定 時数	授業 実施 時数
4					
5					
6					
7・8					
9					
10	物質の構成 物質の変化	物質の構成 化学結合 物質量と化学反応式	物質を構成する粒子の組成について学び、物質がどのように結合して成り立っているかを知る。 ◎結合の種類を説明することができ、物質の持つ結合について考えることができる。 ◎原子の構造について説明することができる。 物質量と関連した計算を演習を通して学ぶ。 ◎異なる問われ方をした場合でも正確に計算ができる。 ◎量的な関係について考えることができる。 酸の発見、及びその利用と歴史について知る。酸塩基の反応と応用について整理したうえで、中和滴定実験及び問題演習を行い、量的扱いに習熟する。 ◎酸と塩基を分類できる。 ◎pHを求めることができる。 ◎中和反応を理解し、量的関係について考えることができる。 酸化還元反応について整理したうえで、問題演習を行って理解を深める。 電池と電気分解について整理する。燃料電池の利用などについて学ぶ。 問題演習を行って理解を深める。 ◎酸化剤と還元剤を分類できる。 ◎金属の反応性について理解できている。 ◎量的な関係について考えることができる。 ◎電池のしくみについて理解している。 理解不十分な分野について、演習問題や調べ学習を重ね理解を深める。	後期中間まで	
11	酸化還元	酸と塩基 酸化還元		予定 24	
12					
1				年度末	
2・3		2次講習		予定 20	